

プログラミング、全国で腕試し

小城市の古賀君(三日月) 抱負

小城市 21日に開かれる「全国選抜小学生プログラミング大会」に佐賀県代表として出場する小城市の三日月小6年の古賀巧隼君が8日、市役所を訪れ、大野敬一郎教育長に抱負を伝えた。古賀君は全国優勝への意気込みを示し、「困っている人を助けられるような機器を作りたい」と将来の夢を語った。

「人を助ける機器作りたい」

プログラミングの技 それぞれのアイデアを
術を活用した発想力や 発表し合う。
表現力を競う大会で、 古賀君は、学習塾の
佐賀新聞社などをつく 教材を使って消しゴム
る全国新聞社事業協議 を動かすロボットを作
会が初めて開く。佐賀 った。腕の形をした高
など33都府県の予選を さ30センチほどのロボット
勝ち抜いた33組が出 に消しゴムを持たせ、
場、オンライン方式で 指定した範囲を動くよ

うに設計した。2020年12月に開かれた「さがプログラミングアワード」(佐賀新聞社主催、公共デザインイニシアティブ共催、学映システム特別協賛)の高学年の部で大賞に輝き、全国大会出場を決めた。



全国大会に向けて、大野敬一郎・小城市教育長と肘タツチで活躍を誓った古賀巧隼君(市役所)

▶ った。
(谷口大輔)

趣味でラジコンを作っていた祖父を見て、ものづくりに興味を持ったという古賀君。消しゴムを動かすロボットは「手が自由な人でも、ボタン一つで動かせたら便利じゃないか」と思い付いたという。

4月からは三日月中に通う予定で、「グラプリを取ってプログラミングの部活動をつくりたい」と目標を語